

# 歴史まち歩き

## 18 佐屋街道 金山

コース【金山総合駅▶地下鉄西高蔵駅】

# 尾張鍛冶発祥の地「金山」、 多くの刀に使われた「金山鍔」の一大生産地

名古屋城下と熱田神宮の間に金山という地域がありました。熱田道と佐屋街道の起点があり多くの人が行き交いました。

この地域には、「尾張鍛冶の発祥地」とされ、周辺には古くから鍛冶職人が集まり室町時代後期から江戸時代初期のころにかけては「金山鍔(つば)」とよばれる鍔の一大生産地でした。

### 1 観聴寺(かんちょうじ)

元和年間(1615~1624年)正覚寺(しょうかくじ)十六世空山存宅(くうざんぞんたく)が開基したとされています。本尊は十一面観世音菩薩像。室町期の鑄鉄地藏菩薩立像(県指定文化財)や月待(つきまち)供養碑(市指定文化財)があります。月待信仰は室町から江戸期にかけて盛んで、特定の月齢の日に集まって寝ないで月の出を待ち、飲食をともにしました。半月の上に阿弥陀三尊が浮かぶともいわれています。

### 2 金山(かなやま)神社

承和年間(834~847年)、熱田神宮の鍛冶職であった尾崎善光が自らの屋敷に勧請したのが始まりと伝わっています。応永年間(1394~1427年)、尾崎氏は住まいを現在の熱田区中瀬町に移して元の屋敷跡に社殿を造営しました。この付近は熱田神宮の神域北端にあたることから高座結御子神社の末社となり、神宮の禰宜により祭祀が営まれていました。11月8日に「ふいご祭」が開催されます。

### 3 佐屋(さや)街道道標

ここは佐屋街道の起点です。文政4年(1821年)佐屋宿の旅籠連中が建立しました。さや海道、なごや道、宮海道など街道名と行き先を示す典型的な道標です。この街道は、熱田(宮)宿と桑名宿を結ぶ七里の渡しの風雨による欠航や、船酔いを嫌う多くの旅人が行き交い、東海道の脇往還として非常に賑わいました。商用や社寺参りの人々、参勤交代の大名行列、さらにはオランダ商館のシーボルトや十四代将軍家茂、明治天皇もこの道を通りました。

### 4 住吉(すみよし)神社

享保19年(1734年)に摂州の住吉神を勧請しました。当初は、新尾頭町道筋東側の小堂内に奉安した。宝暦12年(1762年)にいたって社域を現所に定め、大坂廻船名古屋荷主の笹屋惣七、藤倉屋長六ら極印講中12名が、運漕守護のため社殿を創建して神儀を奉遷しました。後に江戸廻船講中時田金右衛門らも信者に加わり修営を怠りませんでした。その威霊は遠く伊勢・知多・熊野の沿岸にもおよびました。境内に、名古屋の代表的俳人、圃暁、暁台、土朗の句を一石に刻んだ句碑(三吟碑)があります。

### 5 妙安寺(みょうあんじ)

本尊は宋の古銭で作られたという十一面観音で通称「澤観音」と呼ばれています。熱田神宮の周辺にあった四観音の一つで、堀川沿いにあり、ここからの西南の眺めは遠く鈴鹿山系も望まれる名古屋三景のひとつで、文人墨客が往来しました。境内には「土朗塚」や松尾芭蕉の句碑「時雨塚」、「鴨塚」があります。

### 6 一の鳥居跡(いちのとりいあと)

熱田神宮の北の入口を示す朱塗りの大鳥居が建っていました。

### 7 畑中(はたなか)地藏

お百姓さんが畑を耕していると畑の中から大きな石が現れたので邪魔になるので掘り出そうとしましたが、掘り出すことができず困って家に帰ったその晩、夢に異様な人が現れ「我を祭るならば願いを叶えてやろう」と言って消えてしまいました。そして、次の晩も、その次の晩も現れました。そこで、畑の中から出現されたので「畑中地藏菩薩」として、早速お祭りし、毎日お参りしたところ、夢で言われたようにお参りした人々にも大変御利益がありました。

### 8 高蔵(たかくら)貝塚・古墳群

高座結御子神社の境内やその周辺には七基の円墳があったといわれ、現在は三基が残っています。また、神社の境内には高蔵貝塚があり、古代より熱田台地が生活の場であったことをうかがわせるものです。

### 9 高座結御子神社(たかくらむすびみこじんじゃ)

この神社は3つある熱田神宮境外社殿のひとつで、尾張氏の祖先である高倉下命(たかくらじのみこと)を祀っています。熱田神宮とほぼ同年に創祀された古社です。古くから子育ての神様として有名で、境内にある御井社の井戸を覗くと、カンジャクの虫封じになるといわれています。ほかにも境内には高座稲荷社が祀られています。かつてこの社に幼い秀吉が母とともに参詣し、母は我が子の出世を祈ったと伝えられており、太閤出世稲荷と呼ばれています。織田信長が本殿を造営したとも伝えられています。

### 10 夜寒(よさむ)の里碑

その昔閑静で眺望のよい別荘地とされました。古地誌『厚覧草(あつみぐさ)』に夜寒の里と記されています。碑は歌人磯辺芦丸(号千舟)が自宅地内に建てたもので、尾張の歌枕の一つと知られ、古歌によく詠まれています。現在も周辺には夜寒町という地名が残っています。大高や山崎という説もあります。

